

# 社会の海へ漕ぎ出す君へ

## ～「権利」と「責任」の関係は？～

高等学校・1年生

### I プログラムについて

- 1 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「権利と責任」）  
 =【人権感覚育成のための視点】  
 権利と責任の関係を考える活動を通して、人間らしく生きるため、権利に基づいて行動し、その行動に責任をもつことができるようにする。
- 2 関連する教科等について  
 ○公民
- 3 人権教育上の視点  
 (1) 自分の権利を主張するだけでなく、集団の一員としての責任を果たそうとする態度を身に付けている。(価値・態度)

### II アクティビティーについて

- 1 概要
  - 活動1  
 グループ活動を通して、年齢によって認められる権利が異なることを理解する。
  - 活動2  
 グループ活動を通して、権利ごとに認められる年齢が異なる理由を考える。
  - 活動3  
 グループ活動を通して、権利と責任の関係を理解する。
  - 活動4  
 個人活動を通してまとめた個人の気付きや感想を、全体で共有する。
- 2 準備するもの
  - ワークシート
  - カード対応シート
  - 白紙の「権利カード」「責任カード」（カード対応シートに縦2列に並べられる大きさ）

### 3 アクティビティの進め方

#### ○活動1 「各権利の年齢別区分」

- ① グループで、ワークシートの各事項を、法律によって認められたり、できるようになったりする年齢ごとに区分し、表を完成させる。
- ② 教師が正解を発表し、答え合わせをする。
- ③ 15歳から18歳までに認められたり、できるようになったりする事項が多く集まっていることに気付き、高校時代に多くの権利が認められるようになることを理解する。

#### ○活動2 「認められたりする年齢が違う理由」

- ① グループで、「深夜労働」が認められる年齢の違いについて考える。
- ② 全体での発表により、権利が制限されるのには様々な理由があることに気付く。
- ③ グループで、自動車免許の取得の年齢制限について考える。
- ④ 全体での発表により、「権利」が認められることで「責任」が求められることを理解する。

#### ○活動3 「権利と責任の関係」

- ① 学級での活動を舞台とした設定のもとに、グループ別に、学級の一員としての「権利カード」「責任カード」を作成する。
- ② 「権利カード」と「責任カード」を作成したグループ同士で新グループを作り、カード対応シートにそれぞれのカードを並べる。
- ③ グループで、どの「権利カード」と「責任カード」が対応するのかを考え、対応するカード同士を線で結ぶ。
- ④ 全体での発表により、権利と責任が関係深いものであることに気付かせる。

#### ○活動4 「振り返り」

- ① 学習を通して感じたことなどをワークシートにまとめる。
- ② 全体での発表により、個人の気付きや学びを共有する。

### 4 アクティビティを指導する際のポイント

- 正解を答えさせるのではなく、様々な考えを尊重することで、主体的に権利と責任について考えることができるような活動になることを意識して指導にあたる。
- ワークシート中、作業1のA～L、作業3の事例の設定は、学校の実態等に応じて、内容を部分的に変更して実施することも考えられる。
- 活動3の「権利カード」「責任カード」はあらかじめ教師が用意しておいて取り組ませることも考えられる。
- 例えば、学校行事への取組など、学級集団として活動する時期に実践すると効果的である。

第1章 理論編  
 第2章 事例編  
 人間の尊厳  
 生命尊重  
 自己尊重の感情  
 共感と連帯感  
 公平・公正  
 多様性の尊重・共生  
 コミュニケーション  
 権利と責任  
 参加・参画  
 第3章 資料編

III 授業の実際

時間	学習活動 発問 (T) 生徒の反応例 (S)	教師の働きかけ (・) 人権教育上の配慮 (◎)														
10分	<p>1 本時の学習内容の確認</p> <p>2 年齢別に認められる権利の確認                      T グループで、作業1の事項を、法律によって認められたり、できるようになったりする年齢ごとに区分し、表を完成させましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">〔年齢別の区分表〕 答え</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">年 齢</th> <th style="text-align: center;">事 項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0 歳</td> <td style="text-align: center;">H</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 5 歳</td> <td style="text-align: center;">D・J</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 6 歳</td> <td style="text-align: center;">A・L</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 8 歳</td> <td style="text-align: center;">C・F・G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2 0 歳</td> <td style="text-align: center;">B・E・I</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2 5 歳</td> <td style="text-align: center;">K</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; font-size: small;">平成 30 年 11 月 現在</p> </div>	年 齢	事 項	0 歳	H	1 5 歳	D・J	1 6 歳	A・L	1 8 歳	C・F・G	2 0 歳	B・E・I	2 5 歳	K	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを配布し、本時の学習内容について説明する。</li> <li>机間指導を行い、作業が進まないグループには、各年齢の事項数をヒントとして教えるなどして、活動を活性化させる。</li> <li>15歳から18歳までに多くの事項が集まっていることに気付かせることにより、高校時代に多くの権利が認められるようになることを理解させる。</li> </ul> <p>※新聞配達や映画製作・演劇の事業では、15歳未満でも特別な許可を条件として、例外的に修学時間外に働かせることができる。</p>
年 齢	事 項															
0 歳	H															
1 5 歳	D・J															
1 6 歳	A・L															
1 8 歳	C・F・G															
2 0 歳	B・E・I															
2 5 歳	K															
30分	<p>3 グループでの協議                      T グループで、18歳以上であれば許可される「深夜労働」が、原則として15歳以上18歳未満では許可されないのはなぜか、その理由について考え、発表しましょう。                      S 「深夜労働」は体への負担が大きく、成長途中の18歳未満の子供には悪影響だから。                      T グループで、16歳になると400cc以下の普通二輪車や原動機付自転車の免許が取得できるのに、普通自動車免許は18歳以上にならないと取得できないのはなぜか、その理由について考え、発表しましょう。                      S 車の方が事故を起こした時の被害が大きくなり、被害の補償など運転にはより大きな責任が求められるので、年齢を引き上げてある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「深夜労働」が許可される年齢を引き下げると、成長途中の子供までが「深夜労働」に従事させられる可能性があることを指摘することで、権利は無制限に広げることが良いのではなく、制限されることには理由があることに気付かせる。</li> <li>自動車を運転することで発生する「責任」についての発言を取り上げることで、「権利」が認められる一方で「責任」が求められることを理解させる。</li> </ul> <p>※平成34年度から、民法改正により成人年齢が現行の20歳から18歳に引き下がることに留意する。</p>														

	<p>4 カードの作成と分類</p> <p>T 学園祭でクラス展示をすることになりました。みんなで準備を進めクラス展示を完成させるために必要な「権利として認め合いたいこと」、「責任として果たすこと」を考え、それぞれ「権利カード」「責任カード」を作りましょう。</p> <p>T 「権利カード」「責任カード」を作成したグループ同士を併せて新たなグループを作りましょう。それぞれのカードをカード対応シートに並べ、対応するカード同士を線で結びましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">〔カード例〕</p> <p>「権利カード」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を聴いてもらえる。</li> <li>・疲れたら休憩できる。</li> <li>・苦手な作業は他の人に代わってもらえる。</li> <li>・他に大切な用事がある場合はそちらを優先できる。</li> </ul> <p>「責任カード」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人の意見に耳を傾ける。</li> <li>・与えられた仕事は最後までやり通す。</li> <li>・リーダーに状況を報告する。</li> <li>・特別な事情がない限り、時間いっぱい作業に取り組む。</li> </ul> </div> <p>T 各グループで考えた、対応する「権利カード」と「責任カード」について発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カード作成用の台紙を配布し、以下のような指示をする。</li> <li>※A・B・Cグループは「権利として認め合いたいこと」を考えて「権利カード」を作成しましょう。</li> <li>D・E・Fグループは、「責任として果たすこと」を考えて「責任カード」を作成しましょう。</li> <li>・別のカードを作成したグループ同士を一つのグループにさせ、カード対応シートを配布し、次の指示をする。</li> <li>※AとD、BとE、CとFが新たなグループになり、配布されたカード対応シートの左半分には「権利カード」を、右半分には「責任カード」を縦一列に並べ、どの「権利カード」と「責任カード」が対応するのかを考えて、対応するカード同士を線で結びましょう。</li> <li>・一つの「権利（責任）カード」に対応する「責任（権利）カード」が複数存在する場合もあることを補足説明し、権利と責任が関係深いものであることに気付かせる。</li> </ul>
<p>10分</p>	<p>5 振り返り</p> <p>T 今日の授業で感じたこと、気付いたこと等をワークシートに書き、発表しましょう。</p> <p>S これからは、自分の権利ばかり主張するのではなく、自分の責任も果たすようにしていきたい。</p> <p>S 権利と責任は、コインの表裏の関係と同じだと思った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体発表により、個人の学びを学級全体で共有できるようにする。</li> <li>◎自分の権利を主張することだけでなく、集団の一員としての責任を果たすことも大切であることを理解できるように、ねらい沿った感想等を取り上げ、称賛する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">（価値・態度）</p>

## IV 資料

### (1) ワークシート

( )年( )組 氏名( )

#### ◇作業1：「何歳から？」

以下のA～Lの事項について、日本の法律等で認められたり、できるようになったりする年齢を考え、年齢別の区分表に記入しましょう。(平成30年11月末現在)

- A 200ccの献血ができる。
- B 本人同士の意味だけで結婚できる。
- C 選挙で投票することができる。
- D 原則として、深夜〔22:00～5:00〕でなければ労働ができる。
- E (未婚で)保護者の同意を得ずに、携帯電話を購入できる。
- F 深夜〔22:00～5:00〕の労働ができる。
- G 普通自動車の運転免許が取得できる。
- H 憲法の基本的人権のほか、一般的な権利を得て、義務を負う。
- I 飲酒や喫煙ができる。
- J 自分で遺言を書くことが有効となる。
- K 衆議院議員、都道府県議会議員、市町村長の選挙に立候補できる。
- L 400cc以下の普通二輪車、原動機付自転車の運転免許を取得できる。

〔年齢別の区分表〕

年 齢	事 項
0 歳	
1 5 歳	
1 6 歳	
1 8 歳	
2 0 歳	
2 5 歳	

#### ◇作業2：「あなたはどうか考える？」

以下の1・2について、グループで話し合いました。

- 1 18歳以上であれば許可される「深夜労働」が、原則として15歳以上18歳未満では許可されないのはなぜか、その理由を考えてみましょう。

- 2 400cc以下の普通二輪車や原動機付自転車の免許が取得できるのに、普通自動車免許は18歳以上にならないと取得できないのはなぜか、その理由を考えてみましょう。

## ◇作業3：「みんなで準備を進めクラス展示を完成させるためには……」

学園祭でクラス展示をすることになりました。みんなで準備を進めクラス展示を完成させるために、「権利として認め合いたいこと」と「責任として果たすこと」を考え、「権利カード」、「責任カード」を作成しましょう。

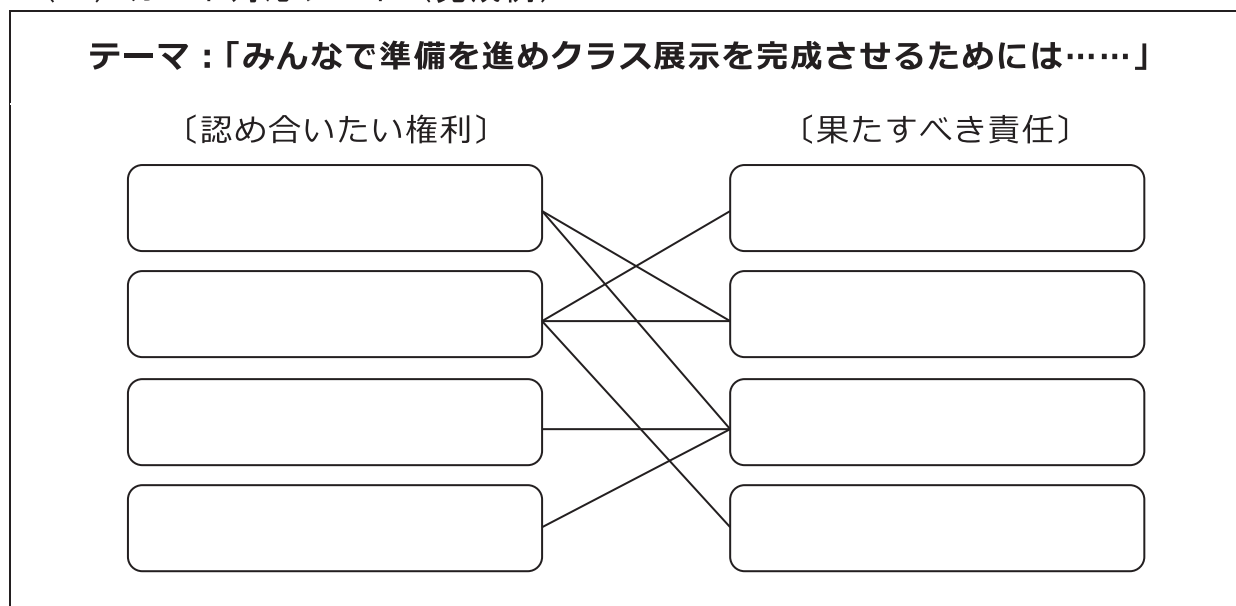
## ◇作業4：「権利と責任の関係は……」

カード対応シートの左半分に「権利カード」を、右半分に「責任カード」を縦一列に並べ、対応すると思うカード同士を線で結びましょう。

## ◇振り返り

今日の授業で感じたこと、気付いたこと等を自由に書きましょう。

## (2) カード対応シート (完成例)



## V 出典・参考資料

- 「人権教育指導者用手引き『気づく・学ぶ・広げる人権学習』」  
(平成16年3月) 和歌山県教育委員会